



Title	「例外性」の表現と叙法 : excepto queを中心に
Author(s)	出口, 厚実
Citation	大阪外国語大学論集. 2003, 29, p. 1-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79915
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「例外性」の表現と叙法 —excepto que を中心に—

出口 厚 実

Expresiones de la excepcionalidad y el modo verbal en español

DEGUCHI Atsumi

En este estudio se pretende aclarar la función que desempeña el modo verbal en las subordinadas que denotan el concepto de excepcionalidad, especialmente en las encabezadas por *excepto que*. Las cláusulas con el sentido excepcional se dividen en cuatro tipos semánticos y cada patrón puede caracterizarse en función de sus propiedades sintácticas coexistentes para observar y analizar más profundamente sus usos en el español actual.

También se presentan los resultados del recuento que hemos realizado para investigar las distribuciones de los dos modos indicativo/subjuntivo según el esquema establecido. Finalmente señalamos como conclusión que el significado propio de la excepcionalidad o exclusión carece de valor modal intrínseco, o sea, es neutro en cuanto a la selección de modos del verbo en las subordinadas en cuestión.

0. 始めに

叙法交替の起こるスペイン語従属節の中で、“例外性”を表す複文表現に関してこれまであまり関心が向けられて来なかった。文法書や一般の学習参考書類でも言及されることが少なく、このテーマに注目するまで、筆者自身、*excepto que* は何となく接続法と結びつくのでは、という程度のおぼろげな直観に基づく不正確な理解しか持っていなかった。一見、類似するように見える副詞的従属節を導く *sin que* が義務的に接続法を要求する事実が暗にそのような印象を抱く背景にあったのかも知れない¹⁾。

出口（1999）では、*excepto que*, *salvo que*, *menos que*, *salvo si*, *salvo cuando*, *excepto si*, *excepto cuando* などに導入される従属節を取り上げ、これらの形式が叙法の決定にどのように関わるのか、すなわち直説法・接続法の出現は任意であるのか、区別されるとすればそれはどのような基準によるのか、などの疑問点を明らかにできるよう、用例をなるべく広範囲に収集・観察することを通じて例外節の実態記述を試みた。

「～を除いて」を意味する上の諸形式が同義なのか、互換性がどの程度なのか、*salvo*, *excepto* などの語彙意味の違い自体が叙法の決定に影響を及ぼしているのか、という点も

解明されるべき中期的課題であるが、本稿は excepto と関連語を含む複合形式に絞って、より詳細な分析を目指して掘り下げ、例外性全体の把握へのより確実な足がかりとした。

前発表で示唆した暫定的な結論は次の通りであった：

excepto que, salvo que, menos que は 2 種の意味構造タイプに対応し、〔例外・除外・排除性〕 < ... を除いて > の意味自体は叙法に影響しないのではないかという点を指摘した。

(1)

I . X [例外 [文命題]] ⇒ ind, subj

II . Y [例外 [条件 [文命題]]] ⇒ subj

条件設定を含まない I. のケースにおいては、一般的な法原則に従って、文命題を支配する上部構造 X が従属節の叙法を規定すると考えた。同時に、各タイプの形式別に数例ずつの用例文を確認するとともに、手持ち資料の中から該当する例文を抜き出し、叙法の分布状況の集計表(2)を示した：

(2) 叙法別の頻度一覧

	直説法	接続法	合 計
excepto que	30	9	39
excepto si	12	1	13
excepto cuando	13	0	13
exceptuando que	1	0	1
excepción de que	3	0	3
salvo que	50	277	327
salvo en que	1	1	2
salvo si	23	3	26
salvo cuando	41	8	49
salvedad de que	22	1	23
menos que	3	6	9
menos cuando	4	0	4

I. 先行記述の概要

例外性の表現が扱われるケースのほとんどで、excepto que と並んで、salvo que, menos que 等が同時に、または、同等に考慮されるのが習慣なので、この項では原著がそれらを一括して論じているときは、そのまま引用する。

1.1. Fente et al. (1972:27-29)

例外, 除外, 排除の対象となる文的内容を, 特に, 叙法との絡みでまとめて取り扱う記述箇所は見当たらず, 各種の「条件」表現の中に含まれて *salvo que*, *excepto que*, *menos que* 等の例が示され, 若干の注釈が付されている:

主文+従属小辞+従属文のパタンの下位クラスの中で, 接続法のみを要求する小辞群として, 目的・条件を示す *para que*, *a fin de que*, *a que*, *con tal que*, *siempre que*, *a menos que*, *sin que* と共に *salvo que* を挙げている。

- (3) *Saldremos el domingo, salvo que llueva.*

ただし, *salvo que*, *excepto que* は, 純粋に限定的機能を持つ場合, 直説法構文も可能であるとのコメントが付されている。さらに別項の補説 (Adenda) の中で, 「*el hecho de que*, *el que*, 文頭の *que*」に対する解説を追補する形で, いくつか例文が提示される (1972:55-56)。 *menos que*, *salvo que* 及び *excepto que* (に含まれる *que*) は *el hecho de que* の省略形であり, 叙法に関してこれと似た振舞いを見せる (i.e. 無差別に両法を容認する) とされる。

- (4) *Todo me gusta en ella, salvo (menos, excepto) que sea (es) ambiciosa.*
(5) *Me contaron todos sus pasos, menos (excepto, salvo) que hubiera (había) venido aquí.*

一方, "*todo (nada) ... menos (excepto, salvo) que ...*" の構文においては, 許諾・禁止・感情の動詞に関して接続法形動詞が義務的になる。

- (6) *Todo te perdono, excepto que me digas eso.*
(7) *Todo se lo consiento, menos que me falte al respeto.*

他方で, *menos que* ではなく, *pero* で代替されるような純粋に制限的意味の *salvo que* と *excepto que* は直説法を伴うとも注記されている。

- (8) *El Citroen es un coche estupendo en todos los aspectos, salvo que sale muy caro.*
(9) *Es una mujer perfecta en todo, excepto que tiene una manía obsesiva por la puntualidad.*

1.2. Sánchez et al. (1976:148,156)

教材テキストである同書には, 以下の例文と共に, Fente et al. に従ったと思われる簡略な解説が見られる。用例抜きだが, 感情の動詞 (*verbos de emoción*) の具体例として *lamentar*, *gustar* を挙げている。

- (10) *Lo diré todo menos que has/hayas estado aquí.*
excepto que
salvo que

(11) Me lo explicaron todo menos que había/hubiera venido.

(12) Todo te lo permito excepto que llegues a las tres.

(13) Se lo prohibiré todo menos que fume.

(14) No le diremos nada salvo que tú nos des permiso. 「君がわれわれに許可しなければ、彼に何も言うつもりはない」

(15) A menos que la leas, no sabrás de qué trata la obra.

なお、例文(14)では、salvo が例外とする適用領域は直前の nada ではなく、「～の場合を除いて」の条件的解釈がなされる副詞節である。

1.3. Borrego et al.(1985:145-6)

彼らによれば、excepto que, salvo que, a no ser que, en lugar de que, en vez de que が一塊として機能し除外節を導入するケースと、salvo, excepto, a no ser, en lugar de, en vez de が、V1 + que + V2 構造の中の que から分離される場合を区別する必要がある。後者では、V1 の意味が一般的な基準で節内の叙法を決定する。

(16) Todo me parece bien, excepto que tú me hayas tomado el pelo.

(17) Puedo esperar cualquier cosa de él salvo que me traicione.

前者の excepto que 及び salvo que は条件的意味の除外構文を導き、その場合接続法を要求すると規定する【Cf.(18b)】。この意味では salvo si, excepto si と類似する。

(18) a. No ocurre nada, salvo que mi padre ha visto que no he dormido en casa. 「父が私が家で寝なかったことを見たこと以外は、何事もない」

b. No ocurre nada, salvo que mi padre haya visto que no he dormido en casa. 「父がもし、私が家で眠らなかったのを見たのであれば、何事もない」

上の対比対文において、a 文で主張されているのは、少なくとも何らかの事件が起きたということで、それは「何事も起きなかった」という前半分に対する例外である。

(19) Salvo que tengas hambre(= salvo si tienes hambre), no pararemos en el camino.

1.4. Navas Ruiz(1986:99-100)

前出の各著者と異なり、Navas Ruiz は問題の諸構文を譲歩節(Proposiciones concesivas)と条件節の両範疇に二分する。そして従属動詞が直説法形るとき、excepto que と salvo que は aunque に等しい譲歩節を先導し(20-21)、逆に接続法形であれば、条件節で 'si no' に相当する(22-25)と断定する。

(20) Es un buen coche salvo que gasta mucha gasolina.

(21) Es buena persona excepto que pierde los nervios.

(22) Es buena persona salvo que pierda los nervios.

(23) Es un buen coche excepto que requiera mantenimiento frecuente.

- (24) Te arruinarás salvo que moderes tus gastos.
(25) No conseguirá nada excepto que lo haga pronto.

1.5. Butt & Benjamin(1994:264)

salvo que, excepto que は、“条件と例外の従属接続詞”のリストの中に a no ser que, a menos que, fuera de que, como no (sea que), como no fuera que と共に含まれており、接続法を要求するとされる。ただし、直説法との共起の可能性 [Cf. (28). この文は「～という点を除いて」の解釈を受ける] を指摘する注解が付く。

- (26) Me casaré contigo a no ser que/salvo que hayas cambiado de idea.
(27) Íbamos de vacaciones en agosto salvo/a no ser que/como no fuera que yo estuviera muy ocupado.
(28) Ella hablaba mejor, excepto que/salvo que/con la salvedad de que pronunciaba mal las eñes.

1.6. Pérez Saldanya(1999:3301)

前述 Navas Ruiz と同様な見解が示され、次の例が与えられる。excepto que, salvo que は動詞が直説法形であれば譲歩節を、もし接続法形ならば除外意味を持つ条件節を導く、という簡略な扱いである。

- (29) a. El viaje ha ido muy bien, salvo que nos hemos gastado mucho dinero.
b. No les diré nada a mis padres, salvo que sea absolutamente necesario.

1.7. 既存の記述のまとめ

同じ外観の salvo que, excepto que を2種に分類する点で各著者の記述はほぼ一致することが確認できる。第1のタイプは「…でなければ、…である場合を除き」(=si no, excepto si) に相当する条件的副詞節と見なされ、接続法形動詞を含むと規定される。一方、第2のタイプの捉え方については見方が分かれる。これらの形式には「例外、除外」の意味のみが含まれていて直説法・接続法の両方を認めるとするか、あるいは専ら直説法形と結合する譲歩節と扱うかの違いである。前者の見解には el hecho de que, el que との平行性がしばしば指摘されている。

II. 分析

2.0.

本稿の主目的は、文法研究者、言語分析者や辞書編纂者による作例ではなく、生の現代スペイン語において、該当の表現が実際にどのように用いられているかをなるべく広く確認する作業を通じ、上に引用した例外性表現と叙法の関係を再調査することと、それにより包括的な理解に到達することである。

このような意味を表現するものとして中心になるのは、excepto/salvo/menos に que また

は si, cuando が続く節構造であるが、今回の考察の対象を excepto + que 形式に限定する。なお, excepto と同根の動詞 exceptuar, 名詞 excepción を含む表現についても簡略な考察をする。

形式上の特徴は「例外表示語（句）＋節マーカ―」で構成されている点である。確かに, excepto que 等が不可分のまとまりを成す一単位（複合接続詞）として、いくつかの異なる機能を発揮する一面も否定できないけれども、このような観点に立つ従来のアプローチとはやや違った角度から見ていきたい。すなわち, "excepto que", etc. を語彙的個体と捉え、各々の用例についてどのような変種が区別され、その基準が何か？という縦割りの垂直方向の解析ではなく、これらが出現する統語環境及び自身が内蔵する（意味的）水平構造に注目し、それらの差違と諸形式の特性を関連づけようと目論んでいる。

2.1. excepto que の考察

2.1.1 excepto que 節の意味タイプ

先行の文法考究で行われてきた類型化も考慮に入れながら、まず例外節を含む主従構文全体をいくつかのタイプに分類認定することから始めた。もし、前述の各文献の分析姿勢との相違を取って強調するとすれば、本論は、従属節だけでなく主節本体の特徴と従属節の関わり方をより重視している点である。意味面において主節・従属節の内容およびその連携のあり方を基準にして次の A-D の 4 タイプに分類した。

いずれのタイプも、共通して、従属副詞節で非適用事例を提示することによって、主文が該当する範囲あるいは名目的に表示された（または暗黙裏に了解された）全体から除外されなければならない小部分の存在することを示す。

A. 主節：帰結部 従節：非適用の仮定的条件

従属節が真であるとき以外は、すなわち偽であれば主文が真になるという条件文であるが、原則は無条件で主節帰結部が実現されるのに対して、前置詞 excepto が例外となる条件を設定する。「…の場合を除いて、…でなければ」の意味である：

(30) El estudio avanza un déficit de explotación en los distintos supuestos planteados, excepto que crezca mucho la demanda o que las tarifas aéreas sean extremadamente altas. [PC: 12/04/00]
「需要が大幅に増加するか、あるいは航空運賃が極端に高くなる場合を除いて」

B. 主節：総括叙述 従節：非適用・例外となる事実

完全に否定されたり、皆無・普遍存在と捉えられる述語事象の全面性への反例が示され、通則⇔例外の関係が明瞭なケースも多い。従節全体が、副詞的補語の資格で、「…という事実が存在することを除いて」の意味で主動詞へ繋がる：

(31) Sin embargo, este mal no ocasiona ningún tipo de molestia, excepto que afecta el aspecto físico. [NS: 03/10/99] 「外観に影響を与えることを除けば、この病気はいかなる種類の不快感も生じない」

変種として「…という点を除けば excepto en que …」に解釈されるタイプがある。主節が“異同”を表す場合に見られ、例外節においては、ある種の属性の追加・欠如が述べられる。このようなタイプの細分化は全体／同一性を標す具体的な表現を伴うとき、その区別は容易である：

(32) El proyector se parecía mucho al equipo de estudio que utilizaba en su casa, excepto que era más completo, podía proyectar en tres dimensiones y estaba conectado a un escritor-vocal. [CE] 「もっと本格的で、3次元の映写ができ音声認識装置に繋がっている点を除けば」しかし、両変種は上位概念に統括可能なので、ここでは同一範疇にまとめることにした。同等、類似、一致は2つの個体が“すべて”同じ適用域に収まることを示すゆえ、これもまた全体性の一種と見なし得るからである：

(33) Las(sic) presunción de Hera resultó correcta, excepto que la ternera era, en efecto, la ninfa Lo. [IC] 「ヘラの想像は小牛がニンフ Lo であったことを除いて当たっていた」

例えば、上文の述語 *resultar correcto*（正しいことが判明する）は、「予想と同じだ」という意味に解釈できるとともに、すべて正しかったのだから“すべて”が黙了されているとも言える。

C. 主節：全体描述 従節：焦点項に対して局部的非適用・例外となる事実

主文内の特定統語項が描述する全体に対して、非適用の局部を指定する。既に指摘した例外前置詞のもつ特殊性が反映される。非制辞の統語関係を無効化せずに、主文の同じ統語価要素と並置の関係に置く。多く観察されるのは、主節動詞に支配される得る命題のうちあるものが除外される例である：

(34) No sabía nada excepto que se habían trasladado a Hungría en 1916, cuando su propia casa fue arrasada. [MA] 「自宅が襲われたとき彼ら(= 妻子)がハンガリーに転居済みであったこと以外は、彼は何も知らなかった」

ここで、*no saber nada* 対 *se habían trasladado a Hungría* が対照されているのでなく、*no saber nada* 対 *saber que ...* が全体対例外の関係を成立させている。

D. 主節：一般陳述 従節：留保事項 → 譲歩節

最後のタイプは、Bに類似するが、主文／従文に重ね合わされる全体／部分の対立が希薄になり、総論・全体包括に力点が置かれなくなる。例外節の中では、主節趣旨が成立するための要件と矛盾する事柄が述べられる。「…ということを考慮から外して言えば」に当たり、主節の判断に対し、文発語行為の水準で留保を設けるのが従節である。Bとは異なる

り、全体性を示す明示語や明瞭なキーワードを欠く“譲歩構文”と称される前出(20)のような構文がその典型である。もっとも、その種の範囲指定がされなくても、次例が示すように同等性が明らかに推論されることもあり、両タイプの間の連続性も否定できない。

(35) Podría ser Andorra en una tarde de sol, excepto que el idioma aquí es el inglés.
[MN: 26/05/02] 「ここの言葉が英語であることを除けば、晴れた日の午後の Andorra (とそっくり、と同じ) であるといってもよい」

2.1.2 統語構造

a) 例外節の位置

主節に対する相対位置を除いて、例外節の統語環境には目立った差がないようである。第1節で見たとおり文法参考書類の掲げる作例は例外節が主節に後続するものに限られていたが(36iv)、その他の位置バリエーションも少数だが観察される。

(36) i) 独立 M. E ii) 先行 E > M iii) 中間 (.. E ..)m iv) 後行 M > E

[但し M- 主節, E-excepto 節]

独立, 先行, 中間位の例文を(37)-(39)に掲げる:

(37) Álava prueba que no pasa nada por que dejen de mandar los nacionalistas. Excepto que algunos piden explicaciones, (lo que sería la otra posible razón del malhumor de Arzalluz).
[PD: 04/05/00]

(38) Excepto que sellen las fronteras, no pueden controlar las entradas. [NA: 21/10/00]

(39) Pero su misión, excepto que suceda un milagro, parece destinada al fracaso tras las declaraciones realizadas en Ramalá (Cisjordania) ... [UN: 09/01/01]

独立タイプ i) は excepto que が外観上、独立文の体裁をなすが、実質は「後行」タイプの異形で、意味解釈の上では、直前文に従属する。他の文導入接続詞などにも散見される半従属現象の一種であろう。副詞節が、iii) のように主文の中間に割り込むのも、特に、例外節に特有なことではない。

b) 従属レベル

例外節がどのような形で統語的に主文と接合され、内部構成単位に組み込まれるのかが、excepto que 節内部の動詞叙法と密接な関係を持つはずである。一般に、excepto que で先導される構造が1つの節(従って定動詞を含む)として、非義務的な状況補語の資格を持つことは明らかである。ただし、主文の項的要素である特定成分に対してのみ例外性を限定する(40) i) のタイプは他の excepto que 節と区別されるべきと考える。主節述語が表す全体性・同一性への留保ではなく、むしろ主動詞の主語、目的語など自身の構造レベルで、前置詞 excepto が等位接続する形式に近似する。もっとも、全体事象と例外事象が、

文の局部支配下にあることが、明確であるという意味であって、必ずしも、統語上、両者が並置して結合され得るとは限らない。

- (40) i) 前置詞 + 名詞句 ii) (場合) 副詞節 iii) (基準) 副詞節

主節動詞が伝達や知覚の動詞であるとき, excepto の後の que 節が名詞節であり, それを項として前置詞 excepto が繋げているという関係はかなり透明である。

(41) ¿Qué acaba de sentir al ver despegar el avión? Straw no pudo ser más franco: "No he sentido gran cosa, excepto que el proceso se había terminado". [PD: 05/03/00]

(42) Y diría cualquier cosa excepto que soy listo. [JN] 「何を言ってもいいが、自分が頭がいいとは言わないだろう」

これらの用法で、例外節の内容は話者に主張・支持される命題ではなく、ただ主文の統語項が提起する命題である点でも、(40) ii), iii) の副詞節と区別できる。

類型 ii), iii) は主節に補文支配動詞があるなしに関係なく、副詞的修飾節として作用するが、ii) の「場合副詞節」は「…の場合を除いて、…でない場合に」という例外条件を設定する。そして、主節はそれが満たされない場合に起きる事象か、真となる事柄である。

(43) En la Argentina, el voto es obligatorio y hay muchas fijadas para quien no lo haga, excepto que tenga una justificación. [NA: 30/09/01]

(44) El festejo será en todo igual al español, excepto que no se matará al toro porque lo impide la ley. [PC: 01/03/99] 「そのイベントは牛が殺されないことを除いてすべてにおいてスペインのものと同じになるだろう」

文(44)は日本で開催予定の闘牛がスペインと同一であることの例外点を従属節で述べる [基準副詞節] iii) の典型的な例である。

(45) La no aceptación del cargo por parte de un suplente le hará perder su calidad de tal, excepto que la convocatoria fuese para suplir una vacancia temporal. [CU]

なお, todo が言明されるときでも, その厳密な例外事項が従属するとは限らない:

(46) Todo fue más fácil... Excepto que tuve que aguantar a muchos periodistas como usted. [VG: 05/12/01] 「すべてが楽になった。あなた方のような大勢のジャーナリストに我慢しなければならなくなったことを除けば。」

主文はノーベル賞受賞後の資金獲得が容易になったことに触れ, その後に excepto 節が続くが, 後者で明らかにされるのは, その代償もしくは副作用としての歓迎されざる出来事だが, むしろ, プラス面・マイナス面という位の対比が認められる程度であろう。

前の意味分類での C 型は, 統語タイプ ii) に対応するのが普通である。ただし, 構造保持のままで例外性を接続しながら, que 節が, “場合” の副詞節に見えるような特異なケースもある:

(47) ... por 5 profesionales de la carretera, que recorrerán a bordo del único prototipo construido unos 50.000 kilómetros, en todas las condiciones posibles (día, noche, lluvia, sol o tras

una comida copiosa), excepto que el conductor haya bebido alcohol. [MN: 15/02/02]

この文では、「運転手が飲酒した場合」は主文述語（“踏破する”）に關しての例外でなく、「あらゆる想定可能な条件下で」に對しての除外例であるから、焦点項への局部的非適用を示す i) 型でありながら、“～である場合を除いて”を意味している。

Ⅲ. 意味・構造タイプと叙法の分布

3.0. 採取用例

本研究の基礎となるデータは、限定された総合的な資料体ではなく、印刷物、CD-ROM、オンライン新聞・雑誌、パブリックドメイン電子テキストから excepto que を含む部分を抽出し集積したものである。前報告（1999）で考察した 39 例すべてを含むとともに、さらに新たなテキストデータから 200 余を加えた合計 250 サンプルを考察した。

分布上の地理的、社会的変異を調査するに十分と考えられほどの絶対頻度が大きくないため、資料として採用する際の基準枠は「(20 世紀以降の) 現代スペイン語」という緩やかなもので、転記された口語体、対話体なども一部含まれるものの、一般文章語が大半を占める。

文例総数 250 のうち、従属節が不完全で動詞が欠如するものと、主節との繋がりが不明確な 1 例を除く、248 のケースについて、意味タイプ別に excepto que の統語位置、叙法、時制、極性の 4 変数の分布を調べて集計した。

3.1. 意味タイプと従属節の位置

従属節の相対位置は、予想通り、主節後部に立つ場合が圧倒的で 9 割近くを占める。ついで、独立した excepto que 節が多く、先行事例や主節の半ばに割り込む例はわずかである。主節／従節の意味関係では A, B, C の各形式が全体を 3 分する様相である。

(48)

	A	B	C	D	Total
独立	7	5	1	4	17
先行	4	3			7
後行	62	81	68	5	216
中間	7	1			8

合計	80	90	69	9	248

3.2. 従属節の法・時制

直説法・接続法の全体比率は 151：97 で、前者の優勢は変わらないが、出口（1999）の数値と比べると、接続法の割合がやや高く出ているのがわかる。A タイプの例外節は接続法を要求し、B 型は基本的に直説法と結合する。そして C 型は、上位構造依存であるため、

どちらの叙法とも共存する。Dタイプの例は少ないが、確認できたものはすべて直説法形の動詞を有していた。

(49)

	A	B	C	D	Total
接続法現在	69	2	7		78
接続法過去 ra 形	7	1	2		10
接続法過去 se 形	1		2		3
接続法現在完了	3	1	1		5
接続法過去完了			1		1
直説法現在		45	26	6	77
直説法点過去		18	9	2	29
直説法線過去		14	9		23
直説法現在完了		2	4	1	7
直説法過去完了		2	6		8
直説法未来		3	1		4
直説法条件		1	1		2
直説法条件完了		1			1
合計	80	90	69	9	248

3.3. 主節の極性

統語パターンとしてもう1つ調査項目に加えたのは、主節の極性（肯定・否定）である。全体性の表現の有無に注目するのが目的なので、近似否定の *poco*, *apenas* の他, *p.j. negar*, *imposible*, *difícilmente*, *imposibilidad*, *descartar* などの語彙的否定も、「否定表現」に扱った。他方、肯定文のうち、特に *todo*, *cualquier*, *siempre* などの総括表現を伴うケースを別段に計算した：

タイプDを除いて、各区分で否定的表現の主節が肯定表現のそれを上回っていることがわかる。

(50)

	A	B	C	D	Total
否定	46	49	51	1	147
Todo		10	15		25
肯定	34	31	3	8	76
合計	80	90	69	9	248

IV. 近隣構文

例外性を表現する各種構文の中で excepto que とともに近縁な関係にあると推定される、同一語根を含む従属節での叙法分布状況を一瞥しておく。

4.1. exceptuar

例外として除外する意味を純粹に示すのは、動詞 exceptuar が補文を直接支配するときと考えられる。ただし、この用法は非常に稀で、唯一、次の例を見つけることが出来た²⁾。

(51) En relación con el apartado segundo de la disposición adicional cuarta de la LOU, el Consell Consultiu cree que al exceptuar que las universidades católicas tengan que ser reconocidas por los órganos legislativos de las comunidades autónomas se vulnera el principio de igualdad respecto al resto de universidades privadas, y además «limita» competencias autonómicas. [MN: 06/02/02]

上文の直接目的語名詞節は接続法形動詞を含む。一方、データベース CREA 【Cf. VI. 参考資料 b)】に発見される、exceptuando que, exceptuar que, exceptuado que の3例で動詞はいずれも直説法形である。

4.2. excepto cuando と excepto si

接続詞 cuando または si が excepto に後続する従属節の例は頻度数からすれば、excepto que とほぼ互角に近いが、いずれでも直説法形が優勢である。特に、後者の excepto si は 87 : 3 で圧倒的な差違が際立つ。反事実的例外の仮定を設ける場合のような特殊なケースでしか接続法形が用いられないということから、叙法選択が si 条件節と同じ文法的条件に依存することがわかる。確認できた3例の時制は過去形である。

(52) Estas últimas no se usarán entre las diez de la noche y las siete de la mañana, excepto si la ambulancia dispone de regulación de intensidad que deje la señal sonora entre 70 y 90 decibelios. [PC: 27/10/98]

(53) Por tanto, el problema volvería a plantearse a la salida de dicho centro, excepto si se interpusiera recurso por vía civil para proseguir el internamiento, el cual, en todo caso, sería revisable. [PD: 14/10/98]

excepto が cuando に先行する事例では、si に比べてやや接続法の使用比率が高くなるとはいえ、やはり 124/23 で直説法が支配的である。excepto cuando の組み合わせにおける叙法の出現も cuando 節の一般的振舞いにより規制されるものと想定されるが、quando の狭義の時間指定機能と条件用法に必ずしも明確な一線を引きたい領域もあり、なお踏み込んだ詳しい考察が必要と思われる。

(54) Al caserío llegaba el correo una vez a la semana, excepto cuando el cartero debía entregar un telegrama, como fue en aquella ocasión. [WL]

(55) Art. 44. Ninguna disposición legislativa tendrá efecto retroactivo, excepto cuando imponga menor pena. [CV]

4.3. excepción を含む構文

名詞 excepción の内容を示す従属文においても直説法・接続法の両形が認められる。a excepción de que, con (la) excepción de que, con la única excepción de que の構文で出現するのがほとんどで、確認した 42 例で直説法・接続法の比率は 2 : 1 であった。「…である場合のみを除いて」という条件性が意味されるとき、【cf. (57)】、接続法が含まれている。

(56) Habria sido imposible hacerlo en nombre de Naciones Unidas o de Europa, pero, al final, comparto la posición de EEUU, con la excepción de que no estaba de acuerdo en que la necesidad de actuar enérgicamente contra los serbios implicase automáticamente apoyar a Izetbegovic o a Tudjman. [MU: 14/01/96]

(57) ... únicamente el hijo varón de más edad podía ser coronado Rey, con la única excepción de que el soberano sólo tuviera hijas, el caso del padre la Reina actual. [MU: 20/08/96]

V. まとめ

/ excepto / + / que / vs // excepto que // という対立図式を全面的に却下できないにしても、これだけでは叙法の現れ方を説明できない。他方, el hecho de que を補うことのみでも直説法・接続法の出現を規定することも出来ない。両形式においてそれらの上に被さっている意味構造ベースの相違が法選択と関わっていて、前置詞 excepto に含まれている「除外・例外」の意味は、例外節の内部叙法に影響を与えないと結論する。

(58)

		[除外]	
《主文述語	a	》	excepto que = a
		[除外]	《条件・場合》
A	excepto	(en el caso de)	que
		[除外]	[基準]
A	excepto	(en)	que
[	]	法透過要素	a 結合統語関係 () 任意成分
《	》	法規制要素	A 例外節以外の結合統語関係の集合

2.1.2b の統語スキーマと excepto que の意味構成を図式にすると (58) のようになり、[除外] すなわち控除・減算をあらわす意味機能は叙法を透過させるのに対し、仮定条件を設定する意味要素が節内に接続法の惹起を要求する規制力として働く。

VI. 参考資料

a) Logos - Non solo parole.

	ind	subj	?	total
excepto que	9	10		19
excepto si	8	1	1	10
excepto cuando	2	16		18
salvo que	12	102		114
salvo si	20	6	1	27
salvo cuando	5	18		23
salvedad de que	5	0	2	7
menos que	0	1		1

b) CREA

excepto que	30	11		41
exceptuando que	3	0		3
excepto de que	1	0		1
excepto si	22	0		22
excepto cuando	41	9	3	53
excepción de que	2	4	4	10
salvo que	90	384		474
salvo si	32	4		36
salvo cuando	64	12		76
salvedad de que	29	2		31

上表は1999年1月の口頭発表時に調査して報告した数値で、その後の提供サイトでの原テキストの増補等により、該当事例数は相当の増加が認められる。例えば、CREA（2003年3月）では、総計で72例のexcepto que構文が記録される（ただし、パラグラフ・コンテキスト付き実例の取得できるのは61ケースのみ）。

直説法・接続法の範疇の判定留保（記号？）は、文構造の不完結、不完全その他で判定できないもの、文脈上、直説法過去完了または過去の代替形（-ra）と解釈される可能性のあるものを含んでいる。

（注）

1. 山田善郎監修「中級スペイン文法」（1995:346）では‘否定を表す副詞節’（第18章動詞一法）の項で、excepto que, salvo que は常に接続法を従えたと述べられている。
2. Mark Davies 主宰のコンコーダンス・サイト, "Corpus del español" から得られる exceptuar que 文で直説法現在形を伴うのが1例発見できる。

Datos

CE : Robert A. Heinlein : Cadete del espacio (Space Cadet). Sagitario, S. A. 1976.

CU : CONSTITUCIÓN DE LA REPÚBLICA ORIENTAL DEL URUGUAY, Texto vigente de 1997.

CV : CONSTITUCIÓN POLÍTICA DE LA REPÚBLICA DE VENEZUELA, 16 de Enero 1961.

IC : Icarito, Astronomía. Chile, Octubre 1999.

JN : José María Nesprias : La primera y limpia decencia de la escuela dominical., El Golem.

MA : D. H. Laurence : "Mariquita". Tradu. Xabier Galarreta, 1999.

MN : Diario El Mundo del siglo XXI / elmundo.es

MU : El Mundo en CD-ROM / Primer Semestre 1996, Mundired.

- NA : La Nación On Line. Argentina.
NS : Nosotras, Suplemento de Siglo Veintiuno (Guatemala).
NV : Óscar García Recuenco : “Ni vivo, ni muerto... frío” – Concurso Literario / El País Digital, 1998.
PC : El Periódico de Catalunya. Ediciones Primera Plana S.A. Grupo Z, Barcelona.
PD : El País Digital. Diario El País, S.A., Madrid.
PI : Isabel Allende: “El plan infinito”. Plaza & Janes Editores, 1a ed. 1991. Barcelona.
UN : El Universal Digital, Caracas.
VG : La Vanguardia, Barcelona.
WL : “La Caja.”, La Web Literaria 1997.

Referencias

- Borrego, J., J. G. Asencio y E. Prieto (1985) : El subjuntivo - valores y usos. Sociedad General Española de Librería, S. A., Madrid.
Butt, John and Carmen Benjamin (1994) : A New Reference Grammar of Modern Spanish. Second edition. NTC Publishing Group.
Fente, R., J. Fernández, L. G. Feijóo (1972) : El subjuntivo. SGEL, Madrid.
Navas Ruiz, Ricardo (1986) : El subjuntivo castellano. Colegio de España, Salamanca.
Pérez Saldanya, Manuel (1999) : El modo en las subordinadas relativas y adverbiales –Ignacio Bosque y Violeta Demonte (eds.) Gramática descriptiva de la lengua española 2., Espasa, Madrid.
Sánchez, Aquilino, M. T. Cabre y J. A. Matilla (1976) : Español en directo Nivel 2B. SGEL, Madrid.
出口厚実 (1999) : 「例外性」の表現と叙法.<口頭発表>- 関西スペイン語研究会 (於京都産業大学)
1999年01月30日
- (2002) : 例外節と主文の意味関係について- Estudios Hispánicos 27, pp. 1-14

(2003. 6. 11 受理)